

第1問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

実の親による子に対する虐待が後を絶たない。ろくに食事を与えない、暴行を加える、果ては命を絶つ……胸がしめつけられるような惨事がくり返される。これに対して「実の母親なのに」「お腹を痛めた子をあやめるなんて」と批判することはたやすい。しかし、我々は問題の本質を見誤っているのではないか。責任の所在を個人のレベルに求めてきた従来のアプローチでは根本的な解決は期待できまい。

人間の赤ちゃんは、成長が遅い。シマウマの子は生まれてすぐに歩き始めるのに対して、ヒトは一年もかかる。これはヒトがサルから進化した証でもある。理屈はこうだ。ヒトの祖先は二足歩行を始めたが、このことで母体の産道が狭くなった。このため十分な成長を待つてからの出産が困難になる。だから、早期の出産を促すようになった。「未熟児」状態で生まれるため、母親による手厚い養育が必要となる。しかし、これでは^(イ)シヨクリヨウを確保できず親子共倒れとなってしまう。そこで男親に食を確保する役目が課せられた。これが夫婦・家族の始まりである。

医療が発達していない昔は、出産時のトラブルで、あるいは産後の肥立ちが悪くて幼子を残して亡くなる母親は少なくなかった。その場合、実母に^(イ)かわって子育てを担うのは祖父母であつただろう。晩婚化が進んだ現代と異なり、昔は世代交代が早く、祖父母といつても三十代くらいだから、子育てに必要な体力も十分なので支障はない。祖父母もいなければ、親類・縁者、そして地域コミュニティで養育したであろう。

一般に生物は種を保存するために尽力する。細胞分裂、種子で残す、卵を生む……生き長らえるために自然の摂理が働

く。ヒトの場合、新しい個体を生むタイプであるが、そのポイントは多くの個体を発生させる、外敵から身を守る、近親交配による抵抗力の減退を避ける……などである。環境の変化にもかかわらず、生き残った生物には遺伝子情報に様々な工夫が見られる。兄弟でも性格・体質が異なるのも、その例といえよう。更にいくつか検証してみたい。

乳児の「三カ月微笑」をご存知だろうか。嬰兒（乳児）が生後三カ月を過ぎるころに突如として大輪の笑顔を咲かせるようになることだ。天使のスマイルで大人たちをメロメロにしてしまう。単なる肉の塊が愛玩の対象になる瞬間だ。思うに、これは他人による養育を促すための工夫ではないか。三カ月というタイムミングが絶妙である。古の人は育児期間を三カ月ととらえて職場復帰（男は狩猟、女は採集）を促したのかもしれない。両親が不在でも、周りの大人に可愛いがってもらえるように——という配慮ではあるまいか。

「イヤイヤ期」を挙げられることもできる。二歳になる頃、だだをこねたり、理由もなくむずがる現象だ。これも母子の分離を促す工夫かもしれない。いつまでも一人にかかりつきりにならないで、次への準備をせよという子の側からのメッセージだろう。クマは、子が生後一年を過ぎると、養育を拒絶する。これは、子の乳離れを促すだけでなく、次の妊娠に備えるためでもある。ヒトも「イヤイヤ期」を契機に、母子の密着を解いて次の妊娠に備えよというサインであろう。これは、近親交配を避けるために娘が思春期になると（妊娠の準備ができる）父親を気嫌いするのと似ている。これらは子ども側から親に対して^A「子離れ」を促す遺伝子に仕込まれたタイムスイッチといってもよからう。

育児・子育てをしない母親は、母親失格なのだろうか。

人工飼育で育ったトリでも産卵と卵を温めることは教わらなくてもできる。これは本能だ。しかし、卵からかえった雛を育てることはできない。それどころか敵とみなして攻撃すらするという。このことから子育ては本能ではなく、学習と

いえよう。

学習なら、技量に個人差が出る。上手い下手、向き不向き……が生じて当然だ。しかも人間の場合、総じてB下手になっていることを理解しなければならぬ。子育てに向かない、子育てが嫌い——そんな母親がいても不思議はない。

今、日本はCが[○]つてないくらい血縁主義の偏重に陥っている。

個人より家の存続が重要であった頃。次男、三男：は、跡取りがない家へと養子に出されるのが一般的であった。子宝に恵まれない夫婦が子沢山の家庭からもらい受けることも珍しくなかった。そのこともあって、親子関係は必ずしも血縁関係と同義ではなかった。ところが、時流は逆に動いている。子の養育はもっぱら実親が行うべきという偏った考えが浸透してしまった。

その背景として考えられるのが、まず核家族化の進行だ。戦後日本人はアメリカのライフスタイルを大いに取り入れた。核家族化もその一つだ。多世帯・大家族が主流であった頃、親類縁者との交わりは多く、地域コミュニティとの接触も頻繁であった。そのため子育てに実親以外の者が関わるが多かった。しかし、核家族となり、子育てに実親以外の者が関わるのは激減した。これに（ウ）ハクシヤを[○]かけているのが住宅の変化だ。高層の住宅は地上との隔絶を、密閉性の高さは隣との隔絶を促進した。戸建て住宅もその傾向が強い。各自が個室を持ち、敷地を塀で囲ったため縁側で一服ということもなくなった。いきおい地域社会から隔絶された密閉空間での子育てとなる。D血は水より濃いどころかドロドロである。

およそ人間は何のために生きるか。哲学的な意味はさておき、生物学的にはただ一つ。それは子孫を残すためだ。カッ

コウのように子育てを他の鳥に委ねる鳥もいることからわかるように、実親による養育は必須の条件ではない。結果として子どもが生き残れば、この命題を満たすことになる。

ヒトは、肉食を覚えたのを契機に社会を形成してきた。形成せざるをえなかった。牛のような大きな獲物を仕留めるには仲間の協力が不可欠だし、肉食獣のテリトリーを荒らせば、逆に餌食になるおそれもあるから、共同で身を守る必要があった。このように人間は、単独で生きることができないので、集団つまり社会に^(エ)イキョしている。ならば、社会全体が親として、子が育つ環境を整える責務を^(オ)オっているといえよう。誰が養育を担当するかは問題とならないはずだ。養育を必要とする子どもより上の世代は全て「親」と考える。そう考えるならば、一人の親で完結するより、むしろ「産む」「育てる」「支援する」……得意の分野で本領を發揮する分業制をとった方が合理的かもしれない。

とはいえ、定着してしまった社会制度や倫理規範を根本から見直すことは難しいかもしれない。しかし、虐待の疑いが強いならば親権を停止して児童を保護する、養子縁組を促進する。といった手だては可能だろう。これまでの認識を改め、衆知を結集して児童福祉の充実をはかるべきである。

虐待は負の連鎖を生むという。虐待を受けた子は、親になってから子を虐待する傾向が強いからだ。虐待の遺伝だけは阻止しなければならない。

(神園良輔 『『親』とは何か』による)

問1 傍線部問1 傍線部(ア)～(イ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群からそれぞれ一つずつ選べ。

(ア) ショク|リヨウ

- 1 ヨい品物
- 2 音楽は心のカテである
- 3 工作のザイリヨウを揃える
- 4 スズしい風
- 5 リツリヨウ制度

(イ) カ|わつて

- 1 ヘンジン扱いするな
- 2 コウカン日記
- 3 ダイリニンを選任する
- 4 通貨をリョウガエする
- 5 新入生にコウカンを持つ

(ウ) ハク|シヤ

- 1 不景気でハツキユウに甘んじる
- 2 ハクジンと黒人の争い
- 3 盛大なハクシユ
- 4 シユクハクする
- 5 ハクシキを誇る教師

(エ) イ|キョ

- 1 イゼンとして痩せている
- 2 動詞のイゼン形
- 3 シユウイに目を配る
- 4 イガクの進歩
- 5 彼のイギョウ

(オ) オ|っている

- 1 ショウブをかける
- 2 動物のコウビ
- 3 ツイセキする
- 4 オカンがする
- 5 オガワで遊ぶ

問2 傍線部A「『子離れ』を促す遺伝子に仕込まれたタイムスイッチ」と最も関連が深い川柳を選べ。

- 1 パパがいい、いつのまにか パパはいい
- 2 わが家では 子供ポケモン パパポケモン
- 3 まだ寝てる、帰ってみれば もう寝てる
- 4 課長いる 返ったこたえは いりません
- 5 プロポーズ あの日にかえって ことわりたい

問3 傍線部B「下手になっている」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを選べ。

- 1 新しい感染症が懸念されており、他人が赤ちゃんに接することは衛生上好ましくないとされているから。
- 2 助産師・産婦人科医など専門家が多く存在するので、母親が学習する必要性がなくなったから。
- 3 紙オムツの普及、また洗濯機を筆頭とする家電製品の普及で育児にかかる労力が激減したから。
- 4 公共施設でエレベーター・エスカレーター、スロープの設置など環境のユニバーサルフリーが進んだから。
- 5 身の回りに赤ちゃんが少ないので抱かせてもらう機会が減ったから。

問4 傍線部C「かつてないほどの血縁主義の偏重に陥っている」とあるが、その具体例として最も適するものを次から選べ。

- 1 他人の子がいたずらをしても注意しない。
- 2 妊娠しづらい女性が不妊治療に励むこと。
- 3 集団のリーダーの地位を長男が承継すること。
- 4 部族間の紛争解決のために人質を交換すること。
- 5 血液型と星座の占いを重視する女性が増えたこと。

問5 傍線部D「血は水より濃いどころかドロドロである。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次から選べ。

- 1 地域社会が閉鎖的で、よそ者には心を開かないこと。
- 2 組織の中樞を血縁の者で固めること。
- 3 血液にコレステロールなど疾病の要因が増加していること。
- 4 地域社会との接点が少なくなったこと。
- 5 いざというときには遠くの親戚より隣近所が助けてくれること。

問6 この文章の表現と構成についてあてはまるものを次から二つ選べ。

- 1 人類の進化を包括的にとらえて議論の端緒としている
- 2 慣用表現を多用して重層的な議論を展開している。
- 3 常体と敬体を混在させて独自のリズム感を出している。
- 4 起承転結を意識した4部構成になっている。
- 5 反対説を論破することで自説を強化している。
- 6 キーワードリンク（重要語をくり返すこと）で論点を浮き彫りにしている。

配点		正解
問 1	各 2 点	問 1
問 2 ～ 問 5	各 8 点	ア・2
問 6	各 4 点	イ・3
		ウ・3
		エ・1
		オ・1
問 6	4, 6 (順不同)	
問 5	4	
問 4	2	
問 3	5	
問 2	1	